



食科協ニュースレター

2026年1・2月合併号

NPO法人 食品保健科学情報交流協議会
Communication Center for Food and Health Science (CCFHS)

目次

1. 卷頭言 —2026年 年頭所感—
 2. 食品保健科学講座(第1回) 食品保健科学における情報の重要性
 3. 研修会(3月19日)のご案内
 4. 最近の話題①—2025年の食中毒統計(速報)はコロナ禍以前の水準
 5. 最近の話題②—食物アレルゲン表示の改正に関する資料
 6. 今後の活動予定
 7. 会員の皆様へ
- 編集後記

1. 卷頭言 —2026年 年頭所感—

NPO法人 食品保健科学情報交流協議会
理事長 加地 祥文

明けましておめでとうございます。

2026年の新年にあたり、一言ご挨拶申し上げます。

昨年は、事務局の不手際もあって会員の皆様には多大なるご迷惑とご心配をおかけしましたこと改めてお詫び申し上げます。

幸いにも新たな事務局長、事務局員に就任していただき、事務所内のレイアウトも昨年末に一新し、今年は新たな気持ちでスタートを切ることができました。ノートパソコンへの入替えやWi-Fiも整備でき、事務所内の配線もすっきりとしたものとなってきました。

昨年12月19日に開催したWEBミーティング「情報の氾濫時代における食科協の役割とは」において、会員の皆様から多数のご意見を頂戴することができました。やはり、食科協の原点である「行政の施策や通知を分かりやすく解説し、伝えていく」ことが「食品衛生の真の理解につながる」ということや「どういう意図で今回の改正がなされたのか」といった疑問に答え、不安を解消していくことを中心に、これから活動を充実したものにしてゆきたいと思います。

ネット上では玉石混交の情報が氾濫し、フェイクニュースが人々の意思決定に大きな影響を与える時代になってきましたが、真実をわかりやすく伝えていくという当協議会の使命を、今年は原点に戻って果たしていく所存ですので、引き続き皆様方のご支援、ご協力を切にお願いいたします。

